学校番号	３１３

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	看護医療数学	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	短期集中ゼミ　看護・医療系のための数学Ⅰ・Ａ　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では課題に対して自ら考えて周りと協働して考える活動をしていきます。
・授業では板書を書き写すだけでなく，必要なポイントや他の生徒の発言で関連のあることなど，自らが気付いたことを記入していくことが大切です。
・教科書や問題集の問題を解くときは，ただ答えを求めるだけでなく，途中式や考え方も書くようにしましょう。そして必ず答え合わせをしてください。答え合わせは，どこでつまずいたかを知り改善につなげるための大切なプロセスです。
・家庭学習では授業で配布したプリントや問題集などを解き，授業の復習をしてください。
課題提出を求めることもあります。
毎日コツコツとやっていけるように計画をたてて勉学に励んでください。

2　学習の到達目標

１年生で学習した「数学Ⅰ」「数学Ａ」の内容をより深く理解し、看護医療系の進路をめざす上で特に必要とされる数学的な学力を身につける。数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　「数学Ⅰ」「数学Ａ」の内容の基本的概念や原理・法則を再度理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)　応用問題において論理的に考察する力，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
(3)　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学の基本的な概念、原理・法則などについて系統的に理解しているとともに、探究するために必要な知識や技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	展開 因数分解 二重根号のはずし方 無理数の整数部分 絶対値	a：展開の公式を利用できる。因数分解の公式を利用できる。有理数が整数，有限小数，循環小数のいずれかで表される理由を理解している。絶対値の意味と記号表示を理解している。 b：複雑な式についても，項を組み合わせる，降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで，因数分解をすることができる。根号を含む式の計算について，一般化して考えることができる。 c：式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察
	2次関数	2 次関数のグラフと移動 2 次関数の最大･最小 2 次関数の決定 2 次方程式 2 次関数のグラフと判別式 2 次不等式 絶対値を含む方程式･不等式	a：$=ax^2$，$y=ax^2+q$，$y=a(x-p)^2$,$y=a(x-p)^2+q$ の表記について，グラフの平行移動とともに理解している。2 次関数を$y=a(x-p)^2+q$ の形に式変形して，最大値，最小値を求めることができる。2 次方程式において，判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。2 次不等式を解くことができる。 b：定義域が変化するときや，グラフが動くときの最大値や最小値について，考察することができる。2 次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。絶対値記号を含むやや複雑な式についても，適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 c：放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。2 次不等式を解くときに，図を積極的に利用する。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

2学期	図形と計量	三角比の定義 三角比の拡張 三角比の相互関係 三角方程式･不等式 正弦定理 余弦定理 三角形の面積	a：直角三角形において，正弦，余弦，正接が求められる。三角比の定義から，辺の長さを求める関係式を考察することができる。$0° \leqq \theta \leqq 180°$ において，三角比の値からθを求めることができる。また，1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。正弦定理や余弦定理を用いて,三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 b：三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。三角形の面積を，決定条件である 2 辺とその間の角または 3 辺から求めることができる。 c：三角比が与えられたときのθを求める際に，図を積極的に利用しようとする。日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

	場合の数・確率	和の法則・積の法則 順列と組合せ 確率の考え方 余事象の確率 反復試行の確率 条件付確率	a 和の法則，積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。順列の総数，階乗を記号で表し，それを活用できる。組合せの総数を記号で表し，それを活用できる。また，組合せの公式を理解し，利用することができる。確率の定義を理解し，確率の求め方がわかる。確率の基本性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。反復試行の確率を，公式を用いて求めることができる。条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。 b:条件が付く順列，円順列を，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。条件が付く組合せを，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。既習の確率と条件付き確率の違いについて，図や表などを用いて考察することができる。 c: 順列，円順列，重複順列の違いに興味・関心をもつ。組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。加法定理などを利用して，複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。具体的事象について，反復試行の確率を，興味をもって調べようとする。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

3学期	図形の性質	円周角，接弦定理，円に内接する四角形 三角形の外心･内心･重心 角の二等分線 方べきの定理 円と接線，2 円の関係	a：円の基本的な性質を理解している。円に内接する四角形の性質を利用して，角度を求めることができる。円の接線と弦の作る角の性質を利用して，角度を求めることができる。三角形の外心，内心，重心の定義，性質を理解している。定理を適切に利用して，線分の比や長さを求めることができる。方べきの定理を利用して，線分の長さなどを求めることができる。円の接線の性質を利用して，線分の長さを求めることができる。2 つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 b：図形の性質を証明するのに，既習事項を用いて論理的に考察することができる。また，適切な補助線を引いて考察することができる。方べきの定理について，対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。 c：三角形の外心，内心，重心に関する性質に興味を示し，積極的に考察しようとする。方べきの定理の逆が成り立つことに興味･関心をもつ。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度